

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	筑西市立下館西中学校 1・2・3年生 380名 保護者 7名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名 (学級活動) ② 行事名 (教育講演会) ③ その他 () <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<p>(1) 2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、障害者・高齢者のスポーツへの関心を高めていきたい。 また、スポーツを楽しむ心の醸成を推進し、2020年東京オリンピックの成功に貢献できる生徒の育成をめざす。</p>
5 取組内容	<p>(1) 事前学習 オリンピック・パラリンピックの歴史や開催の目的について調べること で、2020東京オリンピック・パラリンピック開催の意義を各学級で話し合う。</p> <p>(2) 教育講演会 ～リオデジャネイロパラリンピックに出場して～ 講師 筑波大学体育専門学群2年生 瀬立 モニカ 選手</p>
	   

	<ul style="list-style-type: none"> ・人は何のために運動をするのか。(木塚先生) ・リオデジャネイロパラリンピックに出場して(瀬立選手) ・障害者へのかかわり方について(瀬立選手) <p>(3) 事後学習 2020東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて、自分たちに何ができるか各学級で話し合い、生徒一人一人が実践できるようにする。 ブラインドサッカーを体育の授業に取り入れ、障害者スポーツを体験する。</p>
6 主な成果	<p>(1) 事前学習により「スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界の実現に貢献すること」という。オリンピック精神について理解することができた。</p> <p>(2) 教育講演会により、「人は生きるために運動をする」ということや「動きながら、状況を判断する能力を向上させる」ことが大切であることを理解することができた。また、パラリンピックの選手村や世界各国のパラリンピアン生き方から、これまでの自分を振り返りさらに向上していくために、何をすべきなのかを考えることができた。</p> <p>(3) 事後学習で、2020東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて、自分たちに何ができるか各学級で話し合い、生徒一人一人が成功に向けて取り組んでいくことを考え、実践するための意欲を高めることができた。</p>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<p>(1) 茨城県内の筑波大学から前回のリオデジャネイロパラリンピックカヌー競技に出場した瀬立選手を招いて教育講演会を実施した。パラリンピアンではあるが、県内の大学を拠点として、身近な鬼怒川や利根川を利用して練習していることなどから親近感を持ち、今後の活躍を応援できるようにした。</p>
8 主な課題等	<p>(1) オリンピックやパラリンピックに関する生徒の実態調査を計画的に実施し、オリンピック・パラリンピック教育推進事業の前後での変容を比較することで、実践した内容の有効性を数値によって実証できると考える。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>(1) 本校に来校してくれたパラリンピック選手の瀬立モニカ選手に関する図書を中心に、オリンピック・パラリンピックで活躍している選手等の図書を購入し、2020年に向けて、生徒の意識の高揚を図っていく。</p> <p>(2) ブラインドサッカーの疑似体験を定期的に行い、疑似体験を通して、どんな人も気持ちよく共存できる社会を目指した話し合いを行い、人権教育や道徳教育の充実を図る。</p>